

保育者に求められる音楽スキルとピアノ教育・音楽教材との関連

—子どものための音楽のありかたを考える—

中野 研也

仁愛大学人間生活学部**

Relationship between musical skills required for childcare workers and piano education/music teaching materials: Consideration of how musical education should be provided for children

Kenya Nakano

Faculty of Human Life, Jin-ai University

小学校や中学校では授業として、保育園・幼稚園（あるいは認定こども園）では日常生活と密接に絡んだ活動として、ともに無くてはならないのが音楽活動である。このような子ども達の音楽活動を、指導者は歌ったり演奏したりすることでリードしていく。従って保育者や教育者は楽器の演奏技術や歌唱力をはじめとする基本的な音楽スキルを身につけていなければならない。

ここでは特に、保育者に求められる音楽スキルとその能力の養成について検討するとともに、子どものための音楽のありかたを論じ、関連する音楽教材についてもひとつの提案を示す。

キーワード：音楽、音楽スキル、ピアノ、音楽活動、子ども、幼児音楽教育

1. はじめに

幼稚園や保育園あるいは認定こども園に入園し、その後小学校を経て中学校を卒業するまでの間、そこへ通う子どもたち全員が音楽活動に参加する。また、それぞれの指導要領等においても、音楽活動や音楽の授業の目的やねらいが明記されている。

幼稚園教育要領および保育所保育指針には、「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。」とあり、小学校学習指導要領には、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」とある。

共通項は「音楽が好きになること」であり、小学校教育においては「基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」という要素が加わる。ここから、音楽あるいは音楽活動が、子どもの教育のために必要なものとして位置付けられていることが見て取れる。

音楽を好む人は多いが、この音楽は我々人間にとって、一体どのような存在なのであろうか。仮に、音楽

がこの世から無くなってしまったとする。このようなことはまずあり得ないが、もしそうなった場合でも、たとえば筆者のような音楽を専門とする者、あるいは音楽に関わる仕事をする人は別としても、多くの人々にとって（それは大変に寂しい状況ではあっても）本質的には困らないであろう。しかし実際には、我々の生活の様々な場面に音楽は存在する。

ここでの主目的は保育者養成のための音楽教育のありかたを検討することだが、そのためには我々人間にとって音楽とは何なのか、保育・教育における音楽の役割とは何なのか、これらを再確認することが必要であると考えられる。

本稿を執筆するにあたり、複数の保育者の方を対象に、保育者に求められる音楽能力と保育現場における音楽活動についてのアンケート調査を依頼した。その結果も踏まえて、論を進める。

2. 人間にとって音楽とは何か

序章でも述べたように、通常の認識としては、多く

の人々にとって音楽は「嗜好品」である。しかしながら、この音楽は我々の生活の至るところに入り込んでおり、歌を歌ったり楽器を演奏したりすることだけでなく、店舗などに流れるBGM、映画やドラマなどの音楽、携帯電話の着メロ、家電製品のお知らせメロディーなど、いちいち挙げていけばきりがない。では、なぜ人はこれほどまでに音楽を求めるのであろうか。

音楽の歴史、すなわち音楽史において、音楽の起源は有史以前に遡ることができるとされている。たとえば、世界最古の笛ともいわれる「ネアンデルタール人の笛」が43,000年前の地層から見つかっており¹⁾、楽器であることが確かなものとしてはドイツ、ウルム近郊の洞窟から出てきた約36,000年前の骨の笛がある²⁾。また、世界最古の「歌」としては、約3400年前の粘土板にフルリ語で書かれていたものがシリアで出土している³⁾。これらが実際にどのような音楽であったのか、今となっては想像するより他はないが、とにかく数万年前には既に何らかの音楽活動が存在し、言葉が生まれると続いて歌も生まれた。これらの事実は、音楽が人間にとって本源的なものであることを示している。そして紀元前6世紀には、現在の「ドレミ」の大元となる「ピタゴラス音律」が作られ、次第に音楽理論体系も整備されていった。さらに時代が下り、17世紀以降のバッハやベートーヴェン、ショパンといった大作曲家が誕生し、西洋クラシック音楽は全盛期を迎えた。そして、20世紀に世界を熱狂させたビートルズも、この流れの中にある。

音楽には人を喜ばせたり悲しませたり、興奮させたり落ち着かせたりするだけでなく、人々の共感や連帯感を生むという作用があるが、この音楽の力を宗教勢力は見逃さなかった。中でもキリスト教は音楽の「人の心を動かす力」を意識的に活用した代表的な宗教である。聖書に書かれた内容を音楽と結びつけて「賛美歌」として整備し、音楽と一体となった宗教活動を行っている。この賛美歌のうちの幾つか、たとえば「あら野の果てに」などは、音楽としての美しさ故に、キリスト教徒でなくとも大勢の人々に知られるところとなっている。

もう1つ、人間にとって音楽が本源的なものであることの証として、人間は生まれたばかりの赤ん坊でも音楽に関心を持つことを挙げておきたい。特に音楽の

「ビート（拍）」の部分が重要で、ビートに反応する動物は人間の他にいないとされている⁴⁾。

これ程までに音楽と人間との関係が密であるが故に、音楽は単なる嗜好品にとどまらず、人間にとってあたかも必需品であるかのような存在となった。保育・教育の場において、この音楽の力が活用される事となったのは、ごく自然の成り行きであろう。

3. 保育の現場での音楽活動

歌唱、合奏、ダンスなどの身体活動、そしてこれらを統合したものに物語性を加えた音楽劇あるいは幼児オペレッタ、そしてマーチングなどが、保育の現場における主な音楽活動である。特に歌唱については朝の歌に始まり、お弁当の歌、おやつのお歌、そして帰る時の歌など、園における1日の生活の流れの中に組み込まれている場合も多い。また季節をテーマにした歌、遠足や運動会などの行事に関わる歌もよく歌われ、さらに園の発表会へ向けての器楽合奏や、ダンスなどの身体活動もある。これらの頻度や重要度は園によってそれぞれ違ったとしても、園生活が音楽と共にあることは確かである。そして、この音楽活動をリードするのは、保育士・幼稚園教諭あるいは保育教諭の役割となる。以下、文章の煩雑さを避けるため、特に区別のない場合は、保育士・幼稚園教諭・保育教諭を合わせて「保育者」の表記で代表すること、また幼稚園免許の取得課程と保育士資格の取得課程とを合わせて「保育士養成課程」あるいは単に「養成課程」と記すことをお許し願いたい。

4. 求められる音楽能力のアンケート調査

保育士・幼稚園教諭の養成課程においては、基礎的な音楽理論、基礎的なピアノ演奏法、歌唱法、弾き歌い等の法令で定められた実践的な授業を通して、保育者としての必要な音楽能力を身につけることになっている。しかし、音楽は経験の有無による個人差が大変に大きい分野である。また現場の音楽活動に関しても、その内容は時代とともに変化があると予想される。そこで、養成課程における音楽教育の参考とすべく、実際に現場で求められる音楽能力とそこで行われる音楽活動について、福井県内の保育士・幼稚園教諭・保育

教諭を対象としたアンケート調査を行った。

質問の項目は以下に示すとおり、音楽スキルの重要度、ピアノの演奏技術、歌唱、使用曲などの11項目に分け、選択および自由記述式とした。

質問①（選択）

音楽スキルの重要性の程度について。

質問②（選択および自由記述）

求められる音楽スキルの性質について。

質問③（選択および自由記述）

求められるピアノ演奏技術の程度について。

質問④（選択および自由記述）

ピアノ演奏で重視すべき点について。

質問⑤（選択）

幼児の歌唱で重視すべき点について。

質問⑥（選択）

歌唱教材（曲）に求められる表現内容について。

質問⑦（自由記述）

童謡・唱歌等の定番曲以外で、よく歌われている曲について。

質問⑧（選択）

ピアノ伴奏の代わりとしてのカラオケ使用の是非について。

質問⑨（自由記述）

質問⑧への回答の理由について。

質問⑩（自由記述）

ピアノ演奏技術や歌唱力とは別に、あったらよいと思われる音楽スキルについて。

質問⑪（自由記述）

養成課程における音楽教育で、改善・強化が望ま

れる点について。

5. アンケートの集計結果から

調査は福井県内の保育士・幼稚園教諭・保育教諭の計85名を対象に行った。ただし、回答者によっては未回答の項目や複数解答の項目があったため、各項目の合計数と対象者の数とは必ずしも合致していない。また、自由記述欄への異口同音の記述に関しては筆者の判断で1種類にまとめ、その回答数として集計した。それでは、まずアンケートの集計結果のみを示す。

質問①

貴園では、保育士／幼稚園教諭または保育教諭の音楽スキルをどの程度重視されていますか？

	回答（選択は1つ）	集計
a	とても重視している。	11
b	やや重視している。	28
c	音楽スキルはあるに越したことはない。	37
d	音楽スキルは特に問わない。	9

質問②

ピアノ演奏や弾き歌い等において、保育／幼児教育の場で求められる音楽スキルとは、次のどのようなものとお考えでしょうか？

	選択項目（複数選択可）	集計
a	ピアニストや歌手のように美しく演奏できること。	2
b	平易な弾き歌いをこなせること。（1-dが1件）	78
c	メロディーのみの譜面に伴奏がつけられる等、楽曲のアレンジ能力。	35
d	その他（ ・合奏などをするときのパート譜の譜面を作成する能力 ・音程が正しい、正しい歌詞・リズム。 ・子どもと一緒に楽しんで歌える ・子どもが歌いやすい伴奏ができること ・メロディーだけでも確実に弾ければ何とかなると思う。	4

質問③

ピアノ演奏技術についてご質問します。

以下の例にあてはめた場合、どの程度の曲を弾けるとよいとお考えでしょうか？

	選択項目（選択は1つ）	集計
a	バイエル100番程度	21
b	ブルグミュラー25の練習曲、もしくはツェルニー100番練習曲程度	39
c	ソナチネ・アルバム程度	20

d	モーツァルト、ベートーヴェンのソナタ、ショパンのワルツ程度	3
e	その他（ ） ・弾ければ弾けるほどよいが、ある程度弾ければよいのでバイエル100番と回答した。 ・1年を通しての子どもの歌の伴奏が弾けること。	2

質問④

ピアノ演奏について、保育／幼児教育の場ではどのような要素を重視されていますか？

	選択項目（複数選択可）	集計
a	歌唱や合奏の伴奏等における演奏の滑らかさ、テンポやリズムの正確さ等の、演奏テクニックの部分。	62
b	楽曲の性格を適切に捉える能力および感性。	27
c	読譜力、あるいは新しい曲の習得力。	36
d	その他（例：音感の改善、表現力等） ・楽譜どおりでなくても楽しく弾けて、歌えること。 ・子どもと一緒に楽しく歌い、踊ることができること。 ・表現力 ・子どもの動きを見ながら子どもに合わせて弾くことのできる力 ・ピアノを弾きながら子どものほうを見て笑顔で歌う。 ・初見力、表現力 ・幼児は遊びの中で何気なくメロディーや歌を作っているように感じます。それをさりげなく拾い上げて劇遊びの中に導入できると、子どもはとても喜びます。その際にやはり耳がいいと良いですし、伴奏も何となく付けられると良いですね。 ・式典での伴奏、そのような時のBGMとしての演奏。	5

質問⑤

幼児の歌唱についてお訊きします。最も重視されている、または最も大切だと考えられる要素を、次の項目より1つお選びください。

	選択項目（選択は1つ）	集計
a	声の大きさ、元気の良さ	33
b	音程やリズムの正確さ	29
c	発声の美しさ、表情(*)の豊かさ	27

※表情とは、ここでは「顔の表情」ではなく「音楽表現」としての表情を意味している。
・複数解答が4件あったため、合計が89となっている。
・[a]の回答のうち1件に「はきはき」「ていねいに」ことばを發していくという意味でもあります。身体の発達と深く関わります。」との添え書きあり。

質問⑥

幼児のための、または保育士／幼稚園教諭のための曲集に収められている楽曲の殆どがいわゆる「長調」で

書かれており、明るい曲調が多くなっています。

そこには「音楽は楽しいものだ」という前提があると思われませんが、例えば子どものための音楽番組の曲や、アニメソング等においては、その限りではありません。そこで、歌唱を始めとする幼児の音楽活動とその素材について、より適切だとお考えになるものを、□a/□bよりどちらか1つ選んで下さい。

（ご回答くださる方の、個人的なご意見で結構です。）

	選択項目（選択は1つ）	集計
a	幼児に対しては、音楽の楽しさの部分に強調したほうがよい。	18
b	幼児には、音楽を通して楽しさだけでなく悲しみや寂しさ等、様々な気持ちを感じ取ってほしい。	64

・未記入が3件あったため、合計が82となっている。
・「b」を選択した回答のうち1件に、ひと言「とても大切」と付け加えられていた。

質問⑦

いわゆる定番とされるような唱歌や童謡以外で、貴園ではどのような曲がよく歌われていますか？また、子ども達はどのような曲を好みますか？

もしそのような曲がありましたら、大学における弾き歌い等の授業に取り入れていきたいと考えておりますので、よろしければ具体的に曲名をお教えてください。

自由記述（曲目を回答）	集計
「ドラえもん（星野源）」	6
「にじ」	7
「夢をかなえてドラえもん」	5
「勇気100%」	5
「Belive」	4
「ありがとうの花」	3
「365日の紙ひこうき」	3
「世界でひとつだけの花」	2
「にじのむこう」	2
「ジブリの曲」	2
「どんないろがすき」	2
「さんぽ」「ぼよん行進曲」「ほたること」「水でっぼう」「お星さま」「ズートピア（主題歌）」「エピカニックス」「宇宙戦艦ヤマト」「ミッキーマウスマーチ」「おもちゃのシンフォニー（合奏／発表会）」「星に願いを（合奏／発表会）」「アナと雪の女王（主題歌）」「パイナップルのせんすいかん」「きみとぼくの間」「はなかつぱれーど」「YMCA」「森は生きている」「アイスのうた」「チポリーノのぼうけん」「モルダウ」「イッサのアメリカ」「コードブルーのテーマ曲」「きみをよ	

ぶのはオレ！」「ダジャレをいうのはだれじゃ」「ココナッツ」「ちょっちゅね」「アンパンマン」「“お母さんといっしょ”より“体操の歌”“ブンバポーン”“おまめ戦隊ビピンピン”」「ピタゴラスイッチ」「アルゴリズム体操」「きみのこえ」「こぶたぬきつねこ」「どんなときも」「翼をください」「鬼のパンツ」「ドレミのうた」「上を向いて歩こう」「YouTube等で聞ける英語の歌」「びわ」「水でっぼう」「歓喜の歌（合奏／発表会）」「聖者の行進（合奏／発表会）」「チキチキバンバン」「スターマンのうた（七夕会）」「ガンバリマンのうた（運動会）」「あめふりくまのこ」「ねずみの前歯ぼりぼりぼり（手遊びもあるが伴奏付きのほうが人気がある）」「うたえバンバン」「君と僕のウララ」「はじめの一步」「未来への行進（かこさとし作曲／越前市の保育園）」「たいせつなもの（ロードオブメジャー）」「ミッキーマウスマーチ」	各1
--	----

自由記述（曲のジャンルやタイプを回答）	集計
アニメ、テレビ、映画の歌 ・となりのトトロの主題歌、挿入歌 ・アンパンマンの歌 ・ドラえもんの主題歌、挿入歌 ・ジブリの曲 ・プリキュアの曲	18
NHK「お母さんといっしょ」の歌	8
季節の歌、季節に合った歌	5
その他、教育テレビで使われている曲など	4
子ども番組で使われている曲、流行している曲	4
朝の歌、おやつ・給食前の歌等、園生活の歌 仏教歌や賛美歌等の、園の歌	4
人間関係や歌詞が子どもの教育にもいい歌	2
J-Pop、テレビドラマの主題歌	2
「てあそび」「うたあそび」「わらべうた」等	3
リトミックの曲、リトミックで使えるような曲	2
振り付けや繰り返しのある歌	2
・CMで使われた曲 ・「音楽教育の会」で歌われてきたもの ・沖縄のうた ・テンポのよい曲 ・お笑い番組で歌っている曲（お笑いの人のオリジナル曲） ・じゅもんのような遊びが見られる歌詞の曲 ・子守歌（眠るとき） ・新沢としひこの曲 ・メッセージ性のある流行歌など ・'80年代～'90年代のJ-Popが「1・2・3・4」でリズムが取りやすい ・唱歌や童謡以外はあまり使わない ・園生活で歌謡曲の指導はしていない	各1

質問⑧

歌の伴奏等における、CD等のカラオケ使用について、次の中から最も当てはまるものを1つ選んでお答え下

さい。

	選択項目（選択は1つ）	集計
a	カラオケは使用していない／カラオケの使用は望ましくない。	27
b	できれば生の演奏が望ましいが、保育者・指導者の負担減のためなら使用もやむを得ない。	56
c	積極的に活用するのがよい。	1

- ・未記入が1件あり、合計が84となっている。
- ・「b」の回答の中に「普段は使わないが劇の発表会などの時は使用する」との注釈が1件あり。

質問⑨

質問⑧で「c」を選んだ方は、その理由を次の中から最も当てはまるものを1つ選び、お教えてください。

	選択項目（選択は1つ）	集計
a	保育者・指導者の負担軽減のため。 （質問⑧で□bを選択：2件、□c：1件）	3
b	カラオケはアレンジ等が充実していて、子どもに喜ばれるため。 （質問⑧で□bを選択：1件）	1
c	その他（ ）	0

質問⑩

ピアノの演奏技術や歌唱力の他に、保育者に求めたいと考えられる音楽スキルは何かありますか？

回答	集計
身体活動との連動、身体表現力、リズム運動・リズムあそび等のリトミック能力	22
編曲・編集・アレンジ能力。もしくはコンピューターによる編曲・編集。（発表会などで時間や子どもの動きに合わせる必要があるため。）	10
ピアノ以外の楽器の演奏技術（和太鼓、ギターなどを含む）	5
効果音、劇での挿入音を、その場にある楽器等で音作りできること	4
子どもたちの声に合わせてキーを移調する能力	3
音楽に合わせて踊れること	2
歌詞に込められているイメージ等を子どもに伝えようとする感性	2
幅広く曲を知った上で、適切な選曲ができる能力。	2
楽譜が無くてもすぐに弾ける曲をもっていること。初見力や、感覚で楽譜を見ずに弾く能力	2
マーチングをするにあたり、各楽器のリズム割などの編曲力。	2
声の強弱など、音楽における感情の表現力	2
園でよく使ういろいろな楽器の正しい使い方や指導法	2
・歌詞に伴奏を付けて自分なりに弾けること。 ・童謡・唱歌の知識および日常との連携 ・特別な楽器でなくてもタンバリンやすず、手作	

<ul style="list-style-type: none"> りマラカスなど、自信を持って取り組めるものがあればよい ・音楽に親しみが持てるように関わっていく、取り入れていく力。 ・弾きながら子どもたちの様子を見る余裕 ・最低限度のピアノ伴奏は弾けるようになって、現場に立ってほしい ・簡単な伴奏付けができること ・歌唱指導力、振り付けを考える想像力 ・季節の歌・わらべ歌を笑顔で手あそびしながら楽しんで行う ・豊かな身体表現力 ・ただ歌を教えたり提供したりするのではなく、歌を理解して一緒に楽しむ余裕 ・身体表現を促すようなピアノによる簡単な表現（ゆっくり歩く、怖い雰囲気演奏等） ・リズムあそびのすすめ方 ・簡単な曲の作曲（発表会などで使用できる、ふとした時に歌える） ・CMで流れている曲や有名な曲等、日頃子どもの会話や言葉に合わせてみるなどの柔軟性 ・歌うときの姿勢や口のあけ方、発声のしかた ・音楽を好きになること ・特になし 	各1
--	----

アンケートの結果は以上である。これより各質問項目に対する回答について考察する。

質問①「音楽スキルの重要度」については、「とても重視」の回答と「やや重視」の回答を合わせて約半数、そこへ「あるに越したことはない」を合わせると実に9割に達することから、保育の現場における音楽／音楽活動の重要度は依然として高いことが伺える。また、ここで「音楽スキルは特に問わない」と回答したにもかかわらず、質問③の「求められるピアノ演奏技術」に対しては「ソナチネ・アルバム程度」という、中／上級クラスのスキルを求める回答が1件あった。全ての保育士に音楽のスキルを期待できるわけではないが、音楽活動を行う以上は、やはりそれなりの演奏技術が必要であると認識されていることが読み取れる。

質問②「求められる音楽スキルの性質」については、全体の6割以上が「平易な弾き歌いをこなせること」と答えている。近年は習い事の多様化からピアノを習う子どもは必ずしも多くはなく、保育士・幼稚園教諭志望者といえどもピアノを苦手とする人が増えている。そのために、現場ではピアノ伴奏の代わりにCD等のカラオケを使用しているとの声も聞かれるが、可能な限りは、生の演奏が求められていると推察する。それから、筆者が具体例として選択項目に加えたことによる影響が大きいかもしれないが、「メロディーのみの譜面に伴奏を付けられる等の、楽曲のアレンジ能力」を求める回答が全体の3割に上った。この能力に関しては、専門の教育を受けた音楽家ですら得意な人と不得意な人がいる程であり、ましてや保育士の養成課程において習得を求めるのは無理である。しかし、一定以上の経験あるいは能力とセンスを持った学生に対しては、例えばピアノの実技など音楽系の演習科目の中に、伴奏付けや楽曲アレンジ等の実践課題を含めることは、非常に有益であると思われる。「子どもが何気なく歌っているフレーズに、伴奏を付けてあげられたら最高ですね！」というコメントに象徴されるように、音楽が得意な学生は、将来「音楽が得意な保育士」として、その人ならではの特色を打ち出していくといった可能性も大いに期待できる。

質問③「求められるピアノ演奏技術の程度」に関しては簡単な記述にとどめるが、a)「バイエル100番程

質問⑩

養成課程における音楽教育で、改善または強化が望まれる点がありましたら、お聞かせ下さい。

回答	集計
弾き歌い等、歌に伴奏を付ける能力、演奏技術	4
特になし	3
<ul style="list-style-type: none"> ・主旋律の楽譜を見てコード演奏できるピアノ技術 ・現場ですぐに弾き歌いができる技術が必要になるので、ピアノに触れる機会をもっと増やすといいと思う。 ・実際の現場はピアノが弾けないと何も始まらないので、絶対にある程度は弾けるようになってほしい。 ・合奏の指導方法 ・ピアノに対する苦手意識を無くせるような教育 ・曲にこだわらず、子どもの姿や動きを見ながら、その場や表現、遊びに応じた音をアドリブで出せる力。（例）風の音、心地よい音、落ち葉が舞う音、台風の風など。 ・子どもの歌の伴奏程度は弾けてほしい。 ・春夏秋冬の各曲を（ひととおり）弾けるとよい。 ・よく歌われる曲の伴奏 ・ピアノが上手でなくてもよいが、両手で弾けるようにしておくことは大切。 ・子どもたちの前でも焦らないで対応できる能力 ・トランペットも練習したほうがいいかもしれない。 ・子どもが何気なく歌っているフレーズに、伴奏を付けてあげられたら最高ですね！ 	各1

度」からc)「ソナチネ程度まで」が全体の9割を上回った。特にb)「ブルグミュラー25の練習曲、もしくはツェルニー100番練習曲程度」との回答が全体の半分近くを占めていることから、a)は最低限身につけておいてほしいレベル、b)は十分なレベル、願わくはc)の力量を、と考えられていると推察する。実際、子ども達の歌の伴奏や弾き歌い、合奏等の音楽活動を行うにあたり、a)では少々荷が重く、逆にc)の力があれば、その余裕がもたらす、よりいっそう豊かな音楽表現が可能である。

質問④「ピアノ演奏で重視される点」については、a)の選択が全体の半数、b)とc)がそれぞれ約1/4ずつであったことから、まずは滑らかで正確な演奏を前提として、その曲その曲の適切な表現や新しい曲の習得力が望まれていることがわかる。また、自由記述欄に「ピアノを弾きながら子どものほうを見て笑顔で歌う」といった類の記述が複数見られたことから、保育士が自分の演奏だけで精一杯にならないよう、ここでも技術的な「余裕」が必要となる。

質問⑤「幼児の歌唱」において重視される点については、a)、b)、c)の選択数がほぼ拮抗していた。これら全てを兼ね備えたような、発声が美しく、音程とリズムも正確で、しかも健康的な歌唱というのは、ひとつの理想ではあろう。しかし、どの要素を特に重視するかについては、音楽活動以外のことも含め、園の方針による違いがあると思われる。

質問⑥の「歌唱教材に求める内容」については、b)の回答がa)を大幅に上回った。これについては個人的に思うところが大きいので、章を改めて取り上げる。

質問⑦「童謡・唱歌等の定番曲以外でよく歌われている曲」については、その時に流行っているアニメや映画の曲、NHKなどの幼児向け音楽番組の曲が多く挙げられる中、一般向けのポップソング（「世界に一つだけの花」「365日の紙飛行機」など）や、小中学校の定番曲（「Believe」「翼をください」など）も、よく歌われていることがわかった。この件についても改めて取り上げる。

質問⑧「カラオケ使用の是非」に関しては、「使用しない」「使用は望ましくない」「やむを得ない」の回答を合わせて、ほぼ100%であった。場合によっては

カラオケの使用もやむを得ないが、可能な限り生の演奏が求められていることがわかる。「積極的に利用する」の回答が1件あったが、これについても次の質問⑨の回答から、指導者の負担軽減が主な目的であり、他は「アレンジが充実しているから」の1件にとどまった。

質問⑩「ピアノ演奏技術や歌唱力の他に、あると良いと思われる音楽スキル」については「身体活動との連動やリズム遊び等のリトミック能力」が最も多く挙げられた。小学校の体育の授業が「ダンス」が取り入れたことから、音楽と身体との連動は近年、ますます重視されつつある傾向が見て取れる。他に「合奏などへ向けての編曲能力」「歌詞の内容を伝えられる感性」「園で子どもがよく使われる楽器を正しく教えられること」などが多い中、「楽譜がなくてもすぐに弾ける曲を持っていること」という回答は印象的であり、音楽活動と園生活との密接な関連を再認識する結果となった。確かに、事あるごとに楽譜をいちいち取り出したり並べ直したりしては保育の一連の流れがそこで切れてしまい、子ども達も興醒めであろう。

質問⑪「養成課程における音楽教育で改善・強化が望まれる点」については、「弾き歌い等、歌に伴奏を付ける能力、演奏技術」が複数あげられた。他にもピアノ演奏に関する回答として「春夏秋冬の各曲が弾けると良い」「よく歌われる曲の伴奏」がここでも挙げられたことから、ダンスや和太鼓など近年多様化の傾向を見せる様々な音楽活動の中、ピアノ演奏の重要度は低下していないことが確認された。

初心者へのピアノ演奏技術の習得に関しては、保育士養成課程の音楽教育における最大の課題であり、大学におけるピアノ実技の授業だけでなく、入学前に事前準備の課題を課す等、初心者への対策が今では必須となっている。

6. 幼児の音楽活動に求めるファクターと、養成課程における音楽実技教材のありかたとの関連

6-1 幼児にとって音楽活動は楽しい「だけ」か

子どものための歌唱曲集に収められている曲の大半が、いわゆる「楽しい曲」ばかりである。この状況に筆者は疑問を抱いたため、アンケートの質問項目⑥

「歌唱教材に求める内容」によって、幼児に対しては音楽の楽しさの部分に強調すべきか、それとも楽しさの他にも悲しみや寂しさ等の様々な気持ちを音楽から感じ取ってもらいたいのか、是非とも現場の指導者の意見を知りたいと考えた。

音楽は人間の持つあらゆる感情を表現できること、ゆえに音楽は、感情の表現手段として万能に近いものであると、筆者は半ば確信している。一般向けのポップソングの大半は恋の切なさや満たされない思いを歌ったものであり、楽しさや満足感を表現したものは少ない。また、人を勇気づけるような肯定的な歌詞の歌も多く挙がったが、人はそれだけ不安や心配を抱えて生きているのであり、このような歌に人々が共感を覚えるのは自然なことである。

さて、この切なさ、満たされない思い、不安などのようなネガティブな感情は、果たして大人のみが持つものであろうか。

大人が幼い子どもを想像したとき、まず思い浮かべるのは、楽しそうに遊んでいるような光景である。しかし、更によく考えてみると、あるいは幼児と行動を共にしたならば、むしろ悲しんで泣いたり喚いたりする状況が非常に多い事に気付くであろう。その理由はさまざまで、「欲しいおもちゃが手に入らない」「食べたいお菓子が食べられない」「相手をしてほしいのに、あるいは抱っこをしてほしいのにしてもらえない」「いじめられた」など、また少し大きくなると「約束を守ってくれなかった」「仲のいいお友達との喧嘩」「夕暮れ時、なぜか悲しくなる」あるいは「別れ」など、無数に考えられる。そして、子どもがこのような満たされない思いから何かを学び、成長していくことは、愛されていると感じる等の充足感と同じくらい大切な筈である。

確かに、幼稚園教育要領と保育所保育指針には「音楽の楽しさを味わう」とあり、「豊かな情操を養う」との1文は小学校学習指導要領を待たねばならないが、子どもの「こころ」の成長と、その一助としての音楽が担う役割を考えると、楽しい音楽ばかりという状況が子どもにとって本当に有益なのかどうか疑問を抱いたのが、この件に関する質問項目をアンケートに加えたことの最大の理由である。

その結果は、b)「幼児には、音楽を通して楽しさだけでなく悲しみや寂しさ等、様々な気持ちを感じ取ってほしい。」と答えた回答数が、a)「楽しさの部分に強調した方がよい。」を大きく上回った。現場においても、相手が幼児だからといって、必ずしも楽しいばかりの音楽が良いとは思われていないようである。

6-2 西洋音楽が日本へ導入された経緯

ここで「西洋音楽」と、日本における「西洋音楽の導入と受容」についても少し触れておく。現在、子どもの歌唱曲から一般のポップソングまで、日常接する音楽の殆どは西洋音楽である。西洋音楽とはドレミファソラシドの音階とドミソの和声、そして何分の何拍子という一定のサイクルを持つ拍子を基本とした音楽のことである。この西洋音楽が日本に入ってきたのは19世紀末、明治期のことである。この明治期において、西洋音楽は「教育の一環」として「導入」された。すなわち音楽は、教育のための「道具」として位置付けられたのである。そのため、特に子どものための音楽に対しては次のような思想的バイアスが掛けられることとなった。

- ・子どもらしさ→“大人にとって都合の良い”子どもらしさ→明るく、健全であること
- ・明るくて健全な子ども→健康で元気がよい
- ・健康で元気がよい子ども→お国のために有益

子どもは「大人の視点から」子どもらしくあらねばならず⁶⁾、そのためには一般に暗い曲調とされる「短調」の曲は、子どもの教育に相応しくない「不健全」なものとして、教材からは除かれた⁶⁾。ここに、子どものための音楽は「楽しいもの」として位置付けられたのである。加えて、楽曲構成なども極端に単純なものとなった。実際、いわゆる幼児向けの基本的な曲集において、短調の曲は「小さい秋」「あの町この町」など、ごく一部にとどまっており、明治期の西洋音楽導入の経緯が今でも尾を引いていると見てよい。

「子どもの目線に立って」とはよく聞かれる言葉である。ではこの件について、次の疑問を念頭に置いて考えてみたい。

- ・子どもは、大人が考えるほどに純粹無垢だろうか。
- ・子どもの心や思考は大人が思うほどに単純なものだろうか。
- ・子どもに対して、悲しさや寂しさは覆い隠すべきものだろうか。
- ・人が悲しんでいるとき、ただ楽しい話で相手を笑わそうとするだろうか。
- ・自分が悲しんでいるとき、徒に陽気な音楽を聞かされたら、どのような気持になるだろうか。

子どものための物語や絵本などには、たとえば「浦島太郎」「ぶんぶく茶釜」のような悲しいストーリーや、「カチカチ山」「さるかに合戦」のような仇討ちの要素や残酷性を含む作品が多数あり、これらはごく当たり前に受け入れられている。それが、なぜ音楽に関しては「ひたすら楽しいもの」として位置付けられるのか、強い疑念を筆者は抱いている。これでは音楽が持つ多面的な魅力に子ども達は気づくことができず、音楽に対する感受性の育成を大幅に殺ぐことにはないか。このことは、質問⑤「幼児の歌唱」において、なぜ大声で歌わせるのかという、筆者自身の疑問にも関わってくる。子ども達がひたすら元気でハイ・テンションでいることが、果たして彼らにとって自然な状態なのであろうか。

音楽活動が子どもにとって本当の意味で豊かなものであるためには、音楽が持つ多面性を子どもに隠さず提示すると同時に、子どもの心の多面性を認める必要があると考える。また、そのようにすることで子どもが生まれ持った無限の能力を自然に引き出し、豊かな人間性を育むことにも繋がるのではないだろうか。

では次に、幼児向け音楽の単純さについて考えてみたい。

6-3 養成課程における音楽実技教材のありかた

子どものための唱歌・童謡は、次の2つの意味において非常に単純な作りのものが多い。まず楽曲の構成であるが、一般的なポップソングは「Aメロ」「Bメロ」「サビ」の3つの部分を合わせて1コーラス（1番）となっており、これはNHKなどの子ども向けテ

レビ音楽番組の曲や、アニメソングも例外ではない。ところが、その「サビ」はおろか、Bメロに相当する部分のない曲も珍しくなく、そのため1コーラスは非常に短いものとなる。

次に、リズムが単純であること。詳しくは書かないが1つだけ挙げるとすれば、シンコーションの類が殆ど見られないことである。この点に関しても、子ども向け音楽番組やアニメの音楽においては、たとえ対象が小さな子どもであっても、特に作りが単純というわけではない。そして子ども達はこのような、一般向けの曲と大して難易度の変わらない曲も好んで、しかも当然のように歌っている。

この件に関しては、アンケートの質問項目⑦の結果において、上位1位・2位をそれぞれアニメソング、NHK「お母さんといっしょ」の歌が占めていることから説明ができる。

養成校としては、保育における音楽活動のための基礎的な知識や表現力を身につけるために唱歌・童謡を課題曲として設定しているのであり、この部分を欠かすことは当然できない。しかし、そこで終わってしまったのは、現場での音楽活動との乖離が危惧されるため、このような新しい曲を実技課題として積極的に取り上げていくことは必要であると考えている。ただし、先にも書いたとおり、ポップソングやアニメなどの曲は、多くの唱歌・童謡と比較して曲の規模が大きく、リズムや和声も概して複雑なため、このような課題を履修者全員に課すことは難しい。しかし、一定以上の力を持つ学生（のクラス）を対象に、「自由曲（必修）」あるいは「選択必修曲」のような形で設定することは十分に可能である。

最後に、アンケート質問項目⑩「ピアノの演奏技術や歌唱力の他に、保育者に求めたい音楽スキル」および質問項目⑪「養成課程における音楽教育で改善・強化が望まれる点」に関しては、ともにわらべうたや手遊びうたなどの知識とその指導法、簡単な合奏に使う楽器の知識とその指導力、そして音楽と身体活動との連携すなわちリトミック的な能力を求める回答が多数寄せられたが、これらの点については他の音楽関連の授業でそれぞれ対応しており、また筆者はこの方面の専門ではないため、ここでは言及しない。

7. おわりに

たとえば作曲をするには一定のルールがあり、演奏に関してもある種の基準はあるにせよ、音楽は基本的に人間の感覚的作業による産物であり、正解や結論は出せないものである。このような音楽を保育や教育に取り入れている以上、その方針が将来的に右へ左へと振れることがあったとしても、それはそれで構わないと考えている。むしろ子どもや音楽に対する硬直した観念のほうが問題であろう。

オリバー・サックス（脳神経科医、作家）は次のように述べている。

「生後数ヶ月の幼児にして既に、音楽にともなうメロディーや音程、感情などに反応することがわかっています。ある音楽が鳴ると微笑み、別の音楽では泣き出すというふうに。また言語能力を失った認知症の患者達でも音楽に対してはずっと反応し続けます。」⁽⁴⁾

音楽がこれ程までに人間の深層の部分へ直接働きかけるものであるが故に、特に保育や教育における音楽の位置付けには慎重な議論が望まれる。しかし、これは例えば、かつて西洋音楽が偏重されていたものを、自国の音楽を知るために邦楽を多く取り入れたというような改善や、国際理解のために民族音楽（ワールド・ミュージック）を扱うといった次元の問題ではない（それはそれで大切なことではあるが）。それよりも、6-2で述べたように、子どもの心の多面性を認識すること、音楽のもつ多面性を子どもに隠さず提示すること、そして、音楽は人間の心の相当に深い部分に働きかけるものだというところを、改めて認識することが大切なのではないかと考えている。

「唱歌、校門を出ず」という言葉がある。学校で習った唱歌は授業中にしか歌わない⁽⁵⁾、という意味だが、これは保育の場においても同じであろう。せっかく音楽および音楽活動が子どもにとって必要な「情操教育」として位置付けられているのだから、「ひたすら楽しい」だけでは音楽のポテンシャルに対して余りにも勿体なく、ましてやそれが「大人たちが考える"子どものあるべき姿"⁽⁶⁾の発現を目的とするものであったとしたら、それは音楽に対する冒涇であり、子どもを見くぶり過ぎというものである。

現状において、この部分をたとえ僅かずつであって

も改善していくのは、養成課程における音楽担当教員の役目ではないかと考えている。むしろ、保育士を目指す学生が音楽活動のための基本的なスキルをまず身につけることが大前提としてあり、そのための教育が第一ではあるが、だからこそ、音楽が子どもにあたる限りない力についての認識を教員は学生と共有し、その目的を互いに見失わないことが大切である。

謝辞

本稿の執筆は、若尾裕氏の著書「親のための新しい音楽の教科書」から強い感銘を受けたことがきっかけとなった。子どもと音楽との関係、子ども向けの音楽の是非ついて、これまで公には見られなかった視点で書かれており、保育・教育の場における音楽のありかた、保育士養成課程の音楽教育を考え直す機会となった。本書との出会いに、深く感謝する次第である。

参考文献, URL

1. スロヴェニア政府ウェブサイト「ネアンデルタール人の笛」 <https://web.archive.org/web/20080516064128/http://www.ukom.gov.si/eng/slovenia/background-information/neanderthal-flute/> (9月20日最終閲覧)
2. “Musical behaviours and the archaeological record: a preliminary study”
Ian Cross, Ezra Zubrow, Frank Cowan
Experimental Archaeology. British Archaeological Reports International Series 1035 (2002) p.25~34.
3. 1950年代初期にシリアで発掘されたこの粘土板には、月神シンの妻ニンガル（シュメール神話における葦の女神でもある）への賛歌が記述されており、そこには歌手とハーブ奏者のための詳細な演奏法の指示と、ハーブを調律する方法も指示されている。これをもとに、アン・キルマー教授（アッシリア学の教授、カリフォルニア大学とローウィ・パークレーのAnthropology博物館の管理者）は1972年に世界で最も古い音楽表記を音として現代に再現することに成功した。（筆者訳）
“The Oldest Song In The World”
<http://www.amarantpublishing.com/hurrian.htm>
(9月25日最終閲覧)
4. 知の逆転（NHK出版新書 2012）p.140

インタビュー・編：吉成真由美

5. 親のための新しい音楽の教科書（サボテン書房 2014）

p.31

著者：若尾 裕

6. 同上 p.161

7. 明治の音楽教育とその背景（竹林館 2010） p.41～42

著者：前田紘二

